



生物多様性保全に向けた取り組み

- 世界有数の古代湖として、多くのいのちを育ててきた琵琶湖の姿が大きく変化しています。
- 身近な問題として、水質の悪化や水草の異常繁茂、外来魚の増加、湖水の大循環による
- 「琵琶湖の深呼吸」の遅れなど、さまざまな現象は世界の環境問題を象徴していると言えます。

里山の保全

多くの昆虫や鳥などのすみかとなる自然豊かな里山の姿を取り戻すため、マキノスキー場の「20年後に森をつくらうプロジェクト」に参加し、コナラやクヌギなどを植樹しました。



ヨシ苗植え

ヨシ群落は、魚や鳥たちの産卵・生息場所、琵琶湖の水質保全の役割を担っています。減少傾向にあるヨシ群落を保全するため、ヨシの植栽を行っています。



ヨシ刈り→P18



森づくり サポート活動→P18

役職員2,500名が2年がかりで“どんぐりの実”から育てた1万本の樹木が「びわこ地球市民の森」で、たくましく育っています。



伊吹の ススキ刈り

奥伊吹スキー場にて適切なススキ原の維持管理を目的として、ススキの刈り取りボランティアに参加。



生物多様性格付→P13

地域の皆さまと手を携えて、生物多様性保全の取り組みを進めていくため、独自の評価指標を策定。この指標をきっかけとして、地域で生物多様性への配慮を組み込んだビジネス展開がされることを願っています。

COP10 生物多様性交流フェアに出展

2010年10月、COP10にあわせて開催された、生物多様性をテーマとする国際的な展示会「生物多様性交流フェア」へ7日間、ブースを出展。「琵琶湖を取り巻く環境」や「当行ならではの生物多様性の取り組み」について積極的な意見交換を行いました。



蝶の飛ぶまち 名古屋プロジェクト

～蝶の生息調査～

名古屋支店前に「食草を植えたプランター」を設置し、飛来した蝶の種類を調査しています。



ナミアゲハやヤマトシジミのチョウが飛来。



学校ビオトープ→P9

子どもたちの「環境学習の実践の場」として、多様な生物との共生空間である「学校ビオトープ」づくりをサポートしています。



外来魚駆除釣り →P19

琵琶湖の在来魚を守り、琵琶湖本来の豊かな生態系を保全するため、異常繁殖しているブルーギルやブラックバス等の外来魚駆除活動を行っています。



「びわこ地球市民の森」には、キジやホオジロ、ムクドリがやってきて、種や小さな虫を食べています。



COP10 パートナーシップ事業に 認定

①生物多様性格付、②ヨシ刈りボランティアとニゴロブナ放流式、③外来魚駆除釣りボランティアは、2010年10月に名古屋市で開催された、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)を盛り上げるパートナーシップ事業の認定を受けました。

パートナーシップ事業



滋賀の伝統食「ふなずし」

ニゴロブナの放流→P14

琵琶湖の固有種で絶滅危惧種である「ニゴロブナ」は、湖国の食文化「ふなずし」の原料になります。琵琶湖の生態系保全と地産地消、食育につながる滋賀県ならではのロハスな取り組みとして、放流事業に資金を拠出しています。



ワタカの 放流→P14

水草を食べる琵琶湖の固有種「ワタカ」を利用して、異常繁殖する水草を除去する事業に資金を拠出しています。



滋賀銀行 生物多様性保全方針 ～生物多様性と経済の調和をめざして～

滋賀銀行は、多彩ないのちを育む世界有数の古代湖・琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として、経営に環境を取り込んだ「環境経営」を実践し、地域の皆さまとともに「地球の恵み」である生物多様性の保全、さらには持続可能な社会の実現に努めてまいります。

- 1 役職員自らが生物多様性保全の活動を展開する。
- 2 地域の皆さまと連携し、ネットワークづくりに取り組む。
- 3 環境対応型金融商品・サービスの提供により、生物多様性保全に努める。

2010年8月制定